美しい HUG！　4 月 29 日（土）開幕

2023年4月29日［土］–8月28日［月・祝］

Design | Yuuri MIKAMI

「ホワイトキューブ」「ジャイアントルーム」二つでひとつの八戸市美術館で展開するアーティスト 6 名の作品とプロジェクト。

ゲストキュレーターに、アーツカウンシル東京の森司氏を迎え、6 名のアーティストによる「展覧会」と「プロジェクト」で構成する「美しい HUG！」展覧会が開幕します。

ゲストキュレーター｜　森司
アーティスト｜青木野枝、井川丹、川俣正、きむらとしろうじんじん、黒川岳、タノタイガ

• 記者会見・内覧会　（報道等の関係者向け）
内覧会｜2023 年 4 月 28 日（金）　15:00 ～ 17:00（時間内自由観覧）
オープニングセレモニー｜4 月 28 日（金）　15:00 ～ 15:10
ゲストキュレーター・アーティストによるギャラリーツアー｜4 月 28 日（金）15:10 ～ 15:40 ごろ

お問い合わせ先

八戸市美術館　031-0031 青森県八戸市大字番町 10-4　TEL｜0178-45-8338（代表番号）　FAX｜0178-24-4531
E-mail｜art@city.hachinohe.aomori.jp　八戸市美術館公式 HP｜https://hachinohe-art-museum.jp
広報担当者｜大澤、高橋　本展覧会担当学芸員｜大澤、篠原

美しい HUG！　概要

企画名称	美しいHUG！
展覧会会期	2023年4月29日（土）〜8月28日（月）
プロジェクト会期	2022年6月11日（土）〜
会場	八戸市美術館　（ホワイトキューブ、ブラックキューブ、コレクションラボ、ギャラリー、ジャイアントルーム、マエニワ・オクニワ）
開館時間	10：00〜19：00
休館日	毎週火曜日　ただし、5月2日（火）、8月1日（火）、8月15日（火）は開館
観覧料	一般500円、高校生以下無料
無料観覧デー	6月18日（日）父の日、8月9日（水）ハグの日
各種割引等	◉割引料金：400円｜対象者=20名以上の団体／八戸市内および近隣町村（三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）在住の65歳以上の方／障害者手帳をお持ちの方とその付添者1名／有料駐車場をご利用の運転手1名 ◉フリーパス［かおパス］：800円｜本展覧会に限り何度でもご覧になれます。 ※各種割引・フリーパスは重複して適用することはできません。
購入方法	美術館総合案内（現金・クレジットカード・交通系ICカード） また、チケット情報GETTIIS（オンライン）でも発売（4月1日販売開始）

主催	八戸市美術館
後援	八戸市教育委員会、青森朝日放送、青森テレビ、青森放送、NHK青森放送局、八戸テレビ、デーリー東北新聞社、東奥日報社、エフエム青森、コミュニティラジオ局BeFM

参加アーティスト	青木野枝、井川丹、川俣正、きむらとしろうじんじん、黒川岳、タノタイガ
ゲストキュレーター	森司（東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京事業部事業調整課長／東京アートポイント計画ディレクター）
ドラマトゥルク	佐藤慎也（八戸市美術館館長）
担当学芸員	大澤苑美、篠原英里、齊藤未来、高橋麻衣、田村由衣、平井真里
グラフィックデザイン	三上悠里
WEBデザイン	米山真司、菅井留美、坂本一馬［QANDO］

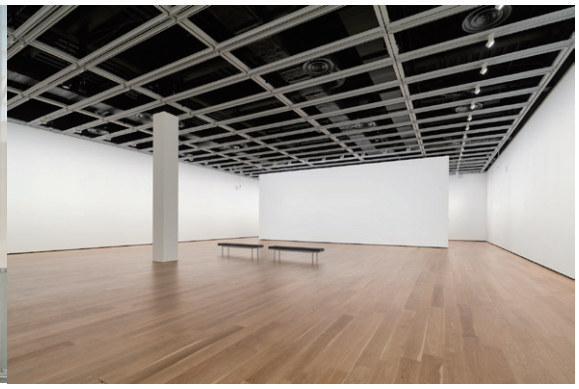
備考	※期間限定で展示する作品があります。 　タノタイガ《15min. ポートレート》｜7月29日（土）〜8月21日（月） ※無料託児サービス設定日があります。WEBにて告知します。

「美しい HUG！」コンセプト

八戸市美術館が掲げる「出会いと学びのアートファーム」のコンセプトを、当館が展開する事業の2つの柱「展覧会」と「プロジェクト」で体現する企画として、ゲストキュレーターに、元・水戸芸術館の学芸員で、現在は東京都歴史文化財団でさまざまなプロジェクトを統括する森司を迎え、「美しい HUG！」を開催します。

人々は、相手に愛情や友好関係を表現するコミュニケーションとして“HUG（ハグ）”をします。日本では、欧米のような日常的なハグの慣習はありませんが、意見や価値観が異なりつつも相手を認める時、敵対のないことを伝える時、試合で負けた相手にその強さと健闘を讃える時など、尊敬の念を持って交わし合うハグを思い浮かべる人も多いのではないでしょうか。コロナ禍で、世界的にも、ハグは回避することが推奨される状況でしたが、現代社会においては、他者と必ずしも同一になるのではなく、それぞれが異なったまま出会い、リスペクトの上、エールを送り合うようなハグのマインドが求められている時代かもしれません。

作品のための「ホワイトキューブ」と、人が活動するための「ジャイアントルーム」が、二つでひとつである八戸市美術館のあり様を「美しい HUG！」とし、展覧会とプロジェクト、作品と人、アーティストと八戸、音楽と美術、過去と未来、見えないものと見えるものなど、さまざまな HUG を八戸市美術館から生み出し、そのことがこの美術館と地域を育む種となることを期待して、この企画を実施します。



ⓒ Daici Ano

キュレーターメッセージ

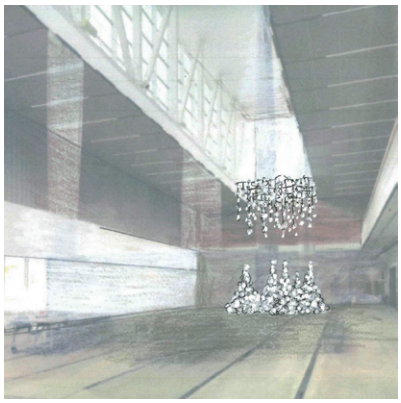
二つでひとつ。八戸市美術館は、入口を入るとアートプロジェクトや活動が立ち上がる「人」のための「ジャイアントルーム」が広がり、その奥に「作品」のための展示室「ホワイトキューブ」へ続きます。この二つの空間を、「作品」と「人」というその場の主体者で区分するのではなく、壁で仕切られた大きなひとつの空間として読み直すことから、「作品」と「人」の二つがひとつになった本展が生まれました。広場に点在する黒川岳の作品は、石を抱く積極的な人の関与を必要とします。ジャイアントルームには、井川丹による人の声が響く作品が広がり、同じ空間に青木野枝の作品が置かれます。ホワイトキューブでは、川俣正による作品の奥に、訪れた人たちの創作により変化するタノタイガの作品が連なります。会期前から始動するきむらとしろうじんじんの作品は、美術館から路上へ出て、人の関わりを広げるプロジェクトです。6 人のアーティストが手がけた、能動的に参加・鑑賞する作品による「美しい HUG !」をお楽しみください。

ゲストキュレータープロフィール

森 司 MORI Tsukasa

1960 年愛知県生まれ。前職の水戸芸術館現代美術センター学芸員時代（1989-2009）には、川俣正、日比野克彦、宮島達男などの個展を企画する。2009 年より公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京事業部事業調整課長。「東京アートポイント計画」ディレクターとして NPO などと協働したアートプロジェクトの立ち上げから企画運営に関わり、人材育成プログラム「Tokyo Art Research Lab」を手掛ける。2011 年 7 月から 2021 年 3 月まで「Art Support Tohoku-Tokyo（ASTT）」を担当した。2015 年より東京都オリンピック・パラリンピックリーディング事業ディレクターとして、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を表現として生み出すアートプロジェクト「TURN」を担当し、TURN フェスなどを実施する。東北芸術工科大学客員教授、女子美術大学特別招聘教授。

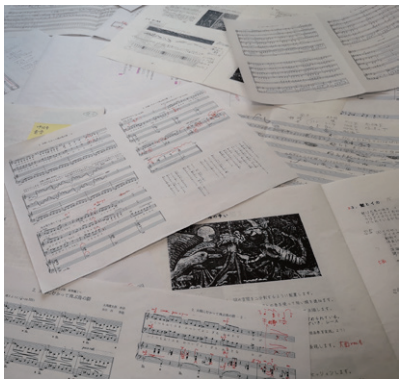
参加アーティスト／作品概要



青木野枝「美しい HUG !」のためのドローイング、2023 年

青木 野枝
AOKI Noe

1958 年東京都生まれ、埼玉県在住。1983 年武蔵野美術大学大学院造形研究科修了。鉄板から円盤形や丸の形、直線など、基本となる形に溶断したパーツをつなぎ合わせ、創作の初期から生命やその働き、生命の源である自然を循環する水の姿を表現してきた。
霧島アートの森(鹿児島)や府中市美術館(東京)での個展開催のほか、瀬戸内国際芸術祭(香川)などの芸術祭では地域の自然や歴史と調和する屋外インスタレーションを制作するなど、注目を集める。
今回、天井高 18m のジャイアントルームの空間を生かした新作インスタレーションを展示。ジャイアントルームが飲食可能なスペースであることから、南部せんべいなども用いられる。



井川丹《あわいの声　ー「虹の上をとぶ船 総集編Ⅰ・Ⅱ」と対話 ー》の楽譜

井川 丹
IKAWA Akashi

1984 年埼玉県生まれ、千葉県在住。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。「人の声」を創作の中心に据え、表現活動を行う。演奏会用作品やサウンドインスタレーションの制作をはじめ、美術家、建築家、ダンサー等との共同制作のほか、近年はアートプロジェクトへの参加、市民参加型ワークショップ、こども創作教室のファシリテーション等を通じて、音を介した表現／コミュニケーションを拡張させ、居合わせた者が多様な身の置き方のできる「場」作りを探求している。
八戸市美術館収蔵作品である教育版画《虹の上をとぶ船　総集編Ⅰ・Ⅱ》を題材とし、ジャイアントルームの時間と空間を包み込む 9 時間の音楽を作曲。その中に含まれる 8 曲の合唱曲は、八戸市内の小中高 5 校の合唱部と録音した。(吹上小学校、柏崎小学校、根城小学校、白銀南中学校、八戸東高校)

川俣正《Under the Water》2016 年、ポンピドゥ・センター・メス

川俣 正
KAWAMATA Tadashi

1953 年北海道生まれ。フランス在住。1982 年のヴェネチア・ビエンナーレ以降、世界各国の国際展やグループ展に参加し、2005 年横浜トリエンナーレでは総合ディレクターを務める。東京藝術大学先端芸術表現科主任教授、パリ国立高等芸術学院教授を経て、現在もパリを拠点に活動。
完成までのプロセスを作品とみなすワーク・イン・プログレスの手法を基本とし、公共空間に木材を張り巡らせるなど大規模なインスタレーションが多く、建築や都市計画、歴史学、社会学、日常のコミュニケーション、あるいは医療にまでその領域は多岐にわたる。
今回、日本初展示となる《Under the Water》は、東日本大震災から着想を得た作品。また、美術館の外観にも作品を設置予定。

八戸野点 2022 in 美術館マエニワ
ⓒ Yuji Hachiya

きむらとしろうじんじん
KIMURA Toshiro JINJIN

1967 年新潟県生まれ、京都府在住。京都市立芸術大学大学院美術研究科で陶芸を学ぶ。1995 年から、参加者がお茶碗に絵付けを施し、その場で焼き上げられた自分のお茶碗でお茶を楽しむ移動式陶芸お抹茶屋台「野点」を全国各地で開催。「もっともチャーミングな」服装で参加者をもてなし、路地・空き地・公園などに一期一会の風景や交流を生み出している。県内では、1999 年に青森市、2005 年に青森市と弘前市で開催。野点の「プロジェクト」を、お茶碗や資料によって「展示」する。また、10 月の野点の開催に向け、新規プロジェクトメンバーを募集。5 月より開催地を探すおさんぽ会などの準備がスタートする。

黒川岳《石を聴く》2018/2023 年 ⓒ YOSUKE SUZUKI

黒川岳　KUROKAWA Gaku

1994 年島根県生まれ。2016 年東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科卒業、2018 年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。物体や環境と身体との関係に着目し、捉え難いものを捉えようとする試みの中で、音や風、水、生物など様々な対象と自身の身体を直接関わらせながら、素材との関係性が「触れる」という感覚に置き換わるときに生まれる物のかたちや所作を彫刻やパフォーマンス・音楽などの作品で表現している。
美術館広場に、昨年秋より先行して作品を設置。石にあいた穴に頭を入れ、石を抱くように音を聞く様子は、SNS でも話題になっている。

タノタイガ《タノニマス》2007 年　東京都現代美術館での展示風景（2019年）ⓒ白井晴幸

タノタイガ
TANOTAIGA

東京都生まれ、仙台育ち、東京都在住。東京造形大学彫刻科卒業。東北芸術工科大学大学院修了。立体造形、映像、パフォーマンスなど素材にとらわれない多様な表現手法によって、社会制度やルール、法律などの記号性と 媒体性を誇張した風刺的表現を行う。ときには、作家自身を媒体化することで日常に埋もれた社会や集団の倫理性を表出させ、作品にはユーモアと毒を兼ね備える。
今回の出品作《タノニマス》は、タノタイガの顔のお面が壁一面に並ぶが、来場者により装飾され、日々変化していく。この作品の制作準備や会期中の運営をサポートする「タノミマス」プロジェクトも進行中。

トークプログラム「注文の多い美術館」

参加アーティストとゲストキュレーター森司が、ゲストを交え、これからの美術館のあり方や作品について深掘りするトークプログラムシリーズ「注文の多い美術館」を全 6 回開催。

開催概要

• ホワイトキューブとストリート

4 月 29 日(土)14:00 ～ 16:00　川俣正、芹沢高志(P3 art and environment 統括ディレクター／さいたま国際芸術祭2023プロデューサー)、佐藤慎也、森司

• アートプロジェクトと青森

4 月 30 日(日)14:00 ～ 16:00　きむらとしろうじんじん、熊倉純子(東京藝術大学教授／八戸市美術館運営協議会委員)、日沼禎子(女子美術大学教授／元・国際芸術センター青森学芸員)、森司

• 黒川岳 アーティストトーク

7 月 9 日(日)14:00 ～ 15:30　黒川岳、小山田徹(アーティスト／京都市立芸術大学教授)、森司

• タノタイガ アーティストトーク

8 月 20 日(日)14:00 ～ 15:30　タノタイガ、佐藤慎也、森司

• 井川丹 アーティストトーク

8 月 26 日(土)14:00 ～ 15:30　井川丹、大西健太郎(ダンサー)、田中文久(音響デザイン)、大澤苑美(八戸市美術館学芸員)、森司

• ジャイアントルームとコレクション

8 月 27 日(日)14:00 ～ 16:00　青木野枝、日比野克彦(アーティスト／東京藝術大学学長／八戸市美術館運営協議会会長)、藤浩志(アーティスト／秋田公立美術大学教授)、森司

トークプログラム「HUG !ガイドツアー」

この展覧会では、八戸市美術館の学芸員 6 名がそれぞれ 1 名ずつアーティストの作品制作担当をしていることから、それぞれが「HUG!」をテーマに切り口を設け、展覧会について作品を見ながら紹介する「HUG !ガイドツアー」を実施します。手話通訳付きのガイドツアーや、作品の設置をともに行った造園屋さんと見る作品鑑賞などを予定しています。詳細は、4 月上旬ごろ特設 WEB サイトで発表します。

開催概要

5 月 20 日(土)、6 月 3 日(土)、6 月 17 日(土)、7 月 8 日(土)、7 月 22 日(土)、8 月 5 日(土)
各日 11:00 ～ 12:00　要展覧会チケット、当日先着順

きむらとしろうじんじん野点 in 八戸 2023
野点説明会＋妄想屋台ワークショップ

昨年 10 月 1 日に開催した「野点 in 八戸」を、今年も開催。開催地を探したり、当日の運営を行ったりするプロジェクトスタッフを募集します。また野点に合わせて自分でも屋台（路上でやってみたいこと）を出してみたい方も募集。説明会とワークショップを開催します。

八戸野点2022 in 美術館マエニワ　焼き上がったお茶碗の煤を洗うスタッフ ⓒ Yuji Hachiya

日時｜5 月 3 日（水）・4 日（木）10:00 ～ 17:00
定員｜20 名程度
申込｜要申込（メール、または電話。4月1日（土）受付開始）

広報物デザインについて

1.　三上悠里デザイン　混ざりきらないグラデーション

美しい HUG！のコンセプトを表すメイングラフィックは、三上悠里がデザイン。「見ようによっては HUG している腕のようでもあり、オーロラのような自然現象にも見えることをねらっています。（中略）HUG に象徴されるような “ 同一になるのではない、混ざり合わない（でも共存している）” という在り方を模索して、粒子によって “ 混ざり切らないグラデーション ” にこだわって制作しました。」（コンセプト全文、デザイナープロフィールは、特設WEBの「想い」ページに掲載しています。）

2.　チラシは6種類。組み合わせるとグラフィックが完成

6 種類のチラシを制作。HUG させるように組み合わせると、メイングラフィックが完成するような仕様になっています。

企画のポイント

1. 八戸市美術館の特徴を表す作品

ジャイアントルームの高さある空間に設置の青木野枝の新作《もどる水／八戸》や、ホワイトキューブ天井一面を使った川俣正《Under the Water 八戸》など、美術館の特徴を活かした作品を展開。川俣は、美術館マエニワからも見える外観にも作品を設置予定です。

2. 参加して楽しめる作品やプロジェクト

昨年秋に美術館広場に先行設置し、穴に頭を入れて音を聴く姿がユーモラスで話題の黒川岳《石を聴く》、来場者が会場内でお面に装飾を施すことで日々壁面の様子が変化するタノタイガ《タノニマス》、プロジェクトチームメンバーを募集して開催するきむらとしろうじんじんの「野点」など、参加性のある作品やプロジェクトが特徴です。

3. 市民と協働した作品制作・準備

音楽家の井川丹は、八戸市美術館収蔵作品である教育版画《虹の上をとぶ船　総集編I・II》を題材とし、ジャイアントルームの時間と空間を包み込む 9 時間の音楽を作曲。その中に含まれる 8 曲の合唱曲は、八戸市内の小中高 5 校の児童・生徒が歌い、録音しました。
（吹上小学校、柏崎小学校、根城小学校、白銀南中学校、八戸東高校）
タノタイガ《タノニマス》は、制作準備や会期中の運営をサポートするプロジェクトチーム「タノミマス」を結成しています。

4. 会期中、トークプログラムで美術館を深掘り

会期中、これからの美術館のあり方や作品について深掘りするトークプログラムシリーズ「注文の多い美術館」と、学芸員による「HUG !ガイドツアー」を実施します。

5. 特設 WEB サイトに情報掲載

この企画の情報発信に特化した WEB サイトを開設。アーティスト情報、プロジェクトのプロセス、作品準備の様子や記録を掲載しています。
URL｜https://utsukushii-hug.jp

6. 観覧料はワンコイン

多くの方に八戸市美術館と HUG してほしいという思いから、観覧料は一般 500 円、高校生以下無料のお手頃価格に設定です。好評の会期中フリーパス「かおパス」もあります。

広報用画像

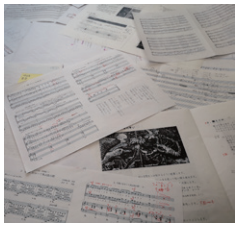
a

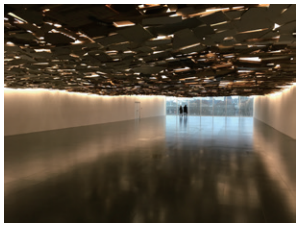
b

c

d

e


f


g

h

i

j

［キャプション］

- a　Design : Yuuri MIKAMI
- b, c,　Daici Ano　または　阿野太一
- d　キャプション不要
- e　青木野枝　「美しい HUG !」のためのドローイング、2023 年
- f　井川丹　《あわいの声　ー「虹の上をとぶ船　総集編Ⅰ・Ⅱ」と対話 ー》の楽譜
- g　川俣正《Under the Water》2016 年、ポンピドゥ・センター・メス
- h　きむらとしろうじんじん「八戸野点 2022 in 美術館マエニワ」ⓒ Yuji Hachiya
- i　黒川岳《石を聴く》2018/2023 年、ⓒ YOSUKE SUZUKI
- j　タノタイガ《タノニマス》2007 年、東京都現代美術館での展示風景（2019年）ⓒ白井晴幸

広報用画像をご希望の方は、【1. 会社名 / 組織名、2. 媒体名・媒体の種類（雑誌、テレビ、webなど）、3. ご担当者名、4. ご連絡先、5. 掲載／放送予定日、6. 画像到着希望日、7. ご希望の写真が掲載されているプレスリリースの発行日、8. ご希望の写真記号】をメール、または FAX に明示の上、下記、お問い合わせ先までご連絡ください。

［画像の貸出条件］

• 画像は本企画・美術館の紹介の目的のみにお使いいただけます。• 画像データは第三者へ譲渡せず、使用後すみやかに消去してください。• 画像のトリミングについては事前にご相談ください。　• 作品画像の上に図や文字を重ねることはできません。　• 画像を掲載、放送する際には、指定のクレジット表記を必ずいれてください。• 画像を掲載、放送する前に、ゲラ等掲載案をお送りください。担当者が確認します。　• 新聞紙、雑誌、書籍等の印刷物に画像を使用する際は、八戸市美術館に 1 部ご寄贈ください。

お問い合わせ先

八戸市美術館　031-0031 青森県八戸市大字番町 10-4　TEL｜0178-45-8338（代表番号）　FAX｜0178-24-4531
E-mail｜art@city.hachinohe.aomori.jp　八戸市美術館公式 HP｜https://hachinohe-art-museum.jp
担当者（広報）｜大澤、山内　本展覧会担当学芸員｜大澤、篠原